



第 3 9 期 株 主 通 信

平成19年5月1日～平成20年4月30日

Financial Report

あなたの元気に一生懸命でいたい。

アイングループ

407 店舗

全国に広がるネットワーク



ごあいさつ



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

平素は、当社に温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第39期（平成19年5月1日から平成20年4月30日まで）の決算が終了いたしましたので、ここに事業の概況につきましてご報告申し上げます。

第39期におきましては、株式会社あさひ調剤、サンウッド株式会社を当社グループに迎えました。また、今年の3月にはグループ会社である株式会社アインメディカルシステムズとの株式交換契約を締結するなど、さらなる企業規模の拡大を図ってまいりました。

目標であった、調剤薬局業界初の売上高1,000億円突破も果たし、グループの店舗総数は400店舗を超えるまでになりました。

今後も、調剤薬局業界のリーディングカンパニーとして当社グループ一丸となって企業価値の向上に努めてまいり所存でございますので、株主の皆様におかれましては、何卒ご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 大谷 喜一

Q 今期の業績はいかがでしたか。

当社は、調剤薬局・ドラッグストアの新規出店とM&Aにより企業規模の拡大を図ると同時に、スケールメリットを活かした収益の向上を事業の基本方針としています。今期、調剤事業では、中国地区初となる広島県への出店をはじめ、グループ合計23店舗の新規出店を行いました。物販事業では、都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」の他にコスメティック商品だけを扱う新形態の「トルペ」をアリオ札幌とアリオ西新井に出店いたしました。

また、M&Aにおいては株式会社あさひ調剤とサンウッド株式会社を昨年6月と11月にそれぞれ買収し、当社グループは合計14社、当期末の稼働店舗数は401店舗となりました。

今期の業績は、新たに加わった2社の業績が一部連結業績に反映されたことや、事業規模拡大とともにグループとしての収益力が強化されたこともあり、売上高1,062億3千1百万円（前期比30.7%増）、経常利益43億1千5百万円（同52.3%増）、当期純利益は16億1千5百万円（同59.9%増）といずれも大幅な増収増益となりました。

Q 医薬事業の展開についてどのようにお考えですか。

調剤事業は、中～大規模の門前型薬局の営業開発を行うとともに、優良なM&A案件については、慎重に検討した上で積極的に推進しております。新規出店につきましては、地域の基幹病院の門前型薬局を中心に、グループとして年間50店舗程を出店していきたいと考えております。

また、今年6月にはエキュート立川内の医療モールにアイン薬局を出店いたしました。これまでもメディカルビルへの出店は行ってきましたが、今回はただ薬局を出店するだけでなく、グループ会社である株式会社メディウエルが医療モール開発に参画し、実現したものです。今後はこのようなプロジェクトにも積極的に携わっていきたいと思っております。

調剤薬局では、処方箋様式の変更などによりジェネリック医薬品の普及も進んでおり、ジェネリック医薬品の専門卸である子会社株式会社ホールセールスターズの成長も期待できます。

来期は、調剤事業のみの売上高で1,000億円を突破する見込みであり、利益ともに過去最高を更新する計画になっております。

Q 物販事業の展開について
どのようにお考えですか。

物販事業は、他のドラッグストアとは差別化された、コスメティック商品を中心とした品揃えと、オシャレな店舗デザインの都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」を中心に outlets しており、既存店においては、全店にカウンセリングカウンターを設置するなどの改装も行っております。これに加えて、今期はコスメティックの専門店「トルペ」を昨年9月にアリオ札幌、11月にアリオ西新井にオープンいたしました。今年5月には港北東急にもオープンしており、今後は「アインズ&トルペ」及び「トルペ」を中心とした outlets 活動を行っていく予定です。

化粧品のみを扱う「トルペ」は「アインズ&トルペ」に比べ、店舗面積を必要とせず、ショッピングセンターや駅ビルなどへの outlets が可能なことから、outlets ペースが加速すると考えております。

また、昨年から在庫の適正化に力を入れて取り組んでおり、在庫日数の減少など確実に効果が上がっております。さらに、商品政策の強化により販売粗利益率も上昇してきておりますので、これら管理レベルの向上により黒字転換できるよう、努力してまいります。

Q (株)CFSコーポレーションとの
経営統合について。

当社と株式会社CFSコーポレーションは、お客様の健康維持に貢献することに最大の価値をおいた経営理念を共通認識とした上で意見交換を重ね、昨年11月に株式移転契約書を締結し、経営統合の実現に向けて準備を進めました。

両社は、それぞれが得意とする調剤薬局事業とドラッグストア事業を融合し経営統合することが、お客様にとって付加価値の高いサービスの提供を可能にするものとして、わが国におけるトータルヘルスケアのリーディングカンパニーを目指すという、大変意義のあるものでした。

この株式移転計画は、今年1月の当社臨時株主総会において、大多数の株主さまのご理解があり、ご承認をいただきましたが、株式会社CFSコーポレーションの一部株主さまのご理解を得るに至りませんでした。

これにより、両社の経営統合は中止となりましたが、当社としては、これまでどおり調剤事業及び都市型ドラッグストアの拡大を進めるとともに、以前に増した業容拡大を強力に推進しますので、株主の皆様には、ご理解を賜りたいと存じます。

Q 来期の業績について お聞かせください。

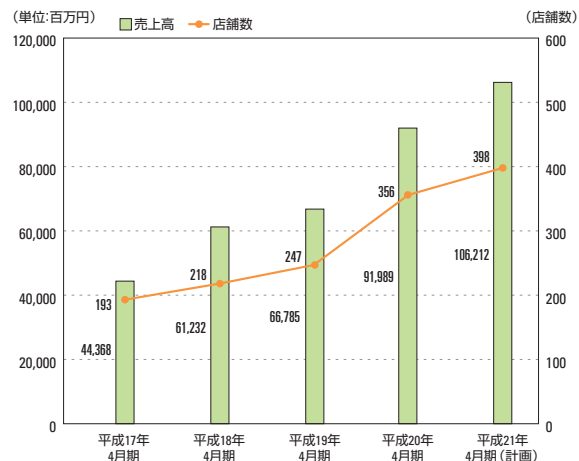
来期においては、医薬・物販両事業の新規出店と、グループ14社によるスケールメリットを活かした事業活動、業務の効率化をこれまで以上に推進することにより、売上高1,206億円（対前年比13.5%増）、経常利益47億2千万円（同9.4%増）、当期純利益21億8百万円（同30.5%増）、1株当たり当期純利益179円40銭（同26.0%増）と売上、利益ともに過去最高を更新し、医薬事業単独の売上高においても、業界初となる1,000億円を超える見込みでございます。

剰余金の配当につきましては、今期は1株当たり20円ですが、来期はこの業績予想を織り込み1株当たり25円を予定しております。

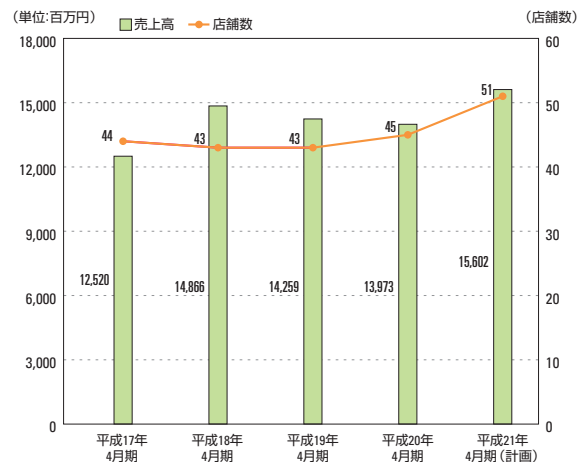
物販事業は、「トルペ」及び「アインズ&トルペ」を年間5店舗以上出店するとともに、在庫の適正化やロス率改善などにこれまで以上に取り組んでまいります。

調剤事業は、システム化による運営効率の向上はもちろん、年間50店舗という出店計画を確実に達成し、事業規模はもとより、安全性・専門性を含め、業界No.1の地位を確固たるものとする所存でございます。

医薬事業売上高・店舗数の推移



物販事業売上高・店舗数の推移



医薬事業

pharmacy



医薬事業は、昨年6月に埼玉県を中心に調剤薬局86店舗を展開する株式会社あさひ調剤（さいたま市大宮区）、11月には富山県に5店舗を展開するサンウッド株式会社（富山県富山市）がグループの一員となり、事業規模の拡大を進めました。

また、調剤過誤の未然防止、調剤業務の効率化及び患者さまに対するサービス向上を目指し、新システムの導入・開発に取り組みました。

今期は、OCR（光学式文字認識装置）による処方箋読み取りシステムの配備に加え、QRコード（二次元バーコード）を活用した汎用性の高い次期モデルの開発のほか、待ち時間を利用した服薬指導を可能とする次世代型電子薬歴システムの導入を進めました。

当連結会計年度は、新たに子会社となりました2社の店舗に加え、23店舗の新規出店を行い、グループ稼動調剤薬局数は356店舗となりました。その結果、売上高919億8千9百万円（前期比37.7%増）、営業利益は59億2千6百万円（同45.2%増）と大幅な増収増益となりました。

topics

本年3月に株式会社アインメディカルシステムズとの株式交換契約を締結し、同社の株主総会のご承認を受け、6月1日に株式交換が成立しました。

これにより、株式会社アインメディカルシステムズは当社の完全子会社となり、当社発行済株式が424千株増加し、資本金は6億円増加いたしました。当社と株式会社アインメディカルシステムズの株式交換の目的は、相次ぐ薬価改定や報酬制度改定など調剤薬局を取り巻く環境変化に対し、より強固なグループ体制を構築して、以前にも増した収益力、競争力を備え、企業価値ならびに両社株主価値の向上を目指すものです。

これまでは、両社がそれぞれ上場会社として独立性を保ちつつ、グループとして連携してきましたが、新規出店、薬局運営をはじめとする両社経営資源の融合のみならず、管理業務等全般の効率化を図り、グループとしてさらなる成長を実現いたします。



アイン薬局守口店（大阪府）

the Next pharmaceutical system

私たちアインファーマシーズグループは、さまざまなかたちで明日の医療を見つめています。

利便性の高い医療を提供

立川駅ビル内への複合診療所

1つのビルに複数の診療科が同居する「医療モール」は、近年、患者さまの利便性の高さから、全国に建設されています。

平成20年6月、株式会社JR東日本ステーションリ

テイリングのプロジェクトとして、東京都立川市に駅直結型商業施設「エキュート立川」がオープンしました。

「エキュート立川」の一部は、医療モールとして、内科、小児科など6診療科を併設したクリニックと、当社アイン薬局が開業しており、利便性の高い「エキナカ」型の新しい医療施設として注目されています。

この医療モールプロジェクトには、グループ会社の株式会社メディウェルが開発段階から参画しており、クリニックから



ナビタスククリニック



エキュート立川

調剤薬局まで、医療施設全体のプロデュースを当社グループで実施するという新しい取組みにおいて行われました。

より専門性の高い服薬指導

次世代型電子薬歴「フロント」

お薬が出来上がるまでの時間を利用し、薬剤師と患者さまが服薬履歴等を一緒に確認しながら、お薬に関する相談、情報提供、服用に関する指導を行います。

待ち時間の軽減と同時に、高付加価値型サービスの提供を実現するシステムを導入しました。



医療制度変更への対応

ジェネリック医薬品の販売

処方箋様式の変更とともに、患者さまの希望により、ジェネリック医薬品への変更が原則として可能となりました。

当社グループは、薬局内において、積極的な説明を行い、患者さまの使用促進に努めています。

またジェネリック医薬品専門の医薬品卸株式会社ホールセールスターズを設立して、全国の調剤薬局、大学病院等に供給しています。



物販事業

drugstore



物販事業では、都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」に加え、トータルビューティーショップ「トルペ」の出店と既存店の改装を行い、コスメティック商品を中心とした専門性の高い店舗展開により、既存のドラッグストアとの差別化を図りました。

既存店の改装においては、「アインズ&トルペ」全店にカウンセリングカウンターを設置し、「コスメティックのセレクトショップ」として新MDによる展開を進めました。

当連結会計年度は、「アインズ&トルペ」の形態で、東京都調布市に1店舗、新形態の「トルペ」で、札幌市、東京都足立区に各1店舗出店いたしました。

「アインズポイントクラブカード」の会員数も前期比23万人増加の152万人を超え、子会社の株式会社アイン東海を含めた物販事業の店舗総数は45店舗となりました。

昨年度の大型店舗の閉店により、売上高は139億7千3百万円（前期比2.0%減）となり、収益改善のための一時的損失及びポイントカード引当金の計上等により、営業損失は4億8千1百万円（同84.5%増）となりました。

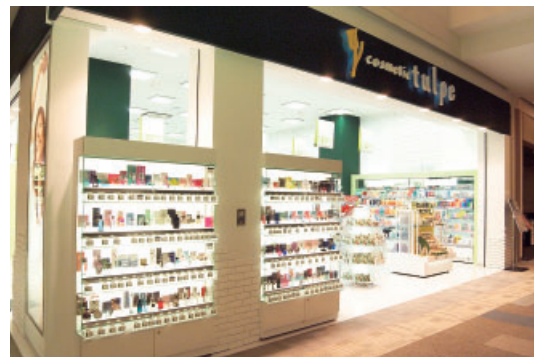
topics

「アインズ&トルペ」のコスメティックのエッセンスとノウハウを集約したトータルビューティーショップ「トルペ」のパイロット店舗「トルペ アリオ札幌店」を昨年9月にオープンしました。

「トルペ」はコスメティック商品を専門に揃えた店舗であり、コスメ&ドラッグの「アインズ&トルペ」よりもコンパクトに設計し、ショッピングセンター・駅ビル等のインショップへの出店も可能な店舗形態としています。

11月には第2号店となる「トルペ アリオ西新井店」、本年6月には「トルペ 港北東急店」がオープンし、現在3店舗となりました。

今後、「アインズ&トルペ」とともに、物販事業における店舗戦略の柱として全国に展開をいたします。



トルペ アリオ札幌店



Discover own beauty

トータルビューティーショップ「トルペ」



“キレイ”をもっと身近に。

私たちの思いとともに、トータルビューティーショップ「トルペ」は誕生しました。

スキンケア、メイクアップなどコスメティック、ボティケアをはじめとする国内外の最新トレンド。

専門的なドクターズコスメ、話題商品から高級ブランドまで。

“キレイ”に関するアイテムを幅広く揃えました。

明るく上質な店内、セルフとカウンセリングのコンビネーションは、

“キレイ”の楽しさを心ゆくまで体験することができます。

「トルペ」は“もっとキレイ”を目指す、お客さま一人ひとりをお待ちしております。



トルペ港北東急店（横浜市） 平成20年5月31日オープン

連結財務諸表

■ 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成19年4月30日現在)	当連結会計年度 (平成20年4月30日現在)
(資産の部)		
流 動 資 産	21,251	22,608
現金及び預金	4,186	4,315
受取手形及び売掛金	7,545	8,964
たな卸資産	5,497	5,355
繰延税金資産	341	568
短期貸付金	475	594
未収入金	2,832	2,421
その他	404	424
貸倒引当金	△ 31	△ 35
固 定 資 産	28,597	34,937
有形固定資産	9,788	11,562
建物及び構築物	5,072	5,794
土地	3,815	4,849
建設仮勘定	366	266
その他	533	651
無形固定資産	9,923	13,903
のれん	9,613	13,459
その他	309	443
投資その他の資産	8,885	9,472
投資有価証券	2,011	1,964
繰延税金資産	627	884
敷金・保証金	5,735	6,111
その他	754	770
貸倒引当金	△ 243	△ 258
資 産 合 計	49,849	57,546

科 目	前連結会計年度 (平成19年4月30日現在)	当連結会計年度 (平成20年4月30日現在)
(負債の部)		
流 動 負 債	31,428	32,570
買掛金	14,325	18,576
短期借入金	12,155	7,377
未払法人税等	740	1,214
預り金	2,353	2,704
賞与引当金	590	718
役員賞与引当金	36	42
ポイントカード引当金	－	278
その他	1,225	1,658
固 定 負 債	7,094	12,268
長期借入金	6,217	10,726
社債	－	472
退職給付引当金	479	735
その他	397	334
負 債 合 計	38,522	44,839
(純資産の部)		
株 主 資 本	10,722	12,171
資本金	3,395	3,424
資本剰余金	3,515	3,543
利益剰余金	3,815	5,207
自己株式	△ 3	△ 3
評価・換算差額等	△ 11	△ 131
その他有価証券評価差額金	△ 11	△ 131
少数株主持分	615	667
純 資 産 合 計	11,326	12,707
負 債 純 資 産 合 計	49,849	57,546

■ 損益計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (平成18年5月1日から 平成19年4月30日まで)	当連結会計年度 (平成19年5月1日から 平成20年4月30日まで)
売上高	81,307	106,231
売上原価	70,448	92,583
売上総利益	10,858	13,648
販売費及び一般管理費	7,970	9,203
営業利益	2,888	4,444
営業外収益	267	403
営業外費用	322	532
経常利益	2,833	4,315
特別利益	448	383
特別損失	540	988
税金等調整前当期純利益	2,741	3,710
法人税、住民税及び事業税	1,342	2,247
過年度法人税、住民税及び事業税	127	—
法人税等調整額	153	△ 273
少数株主利益	108	120
当期純利益	1,010	1,615

■ キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (平成18年5月1日から 平成19年4月30日まで)	当連結会計年度 (平成19年5月1日から 平成20年4月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,277	8,424
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,676	△ 6,980
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,437	△ 1,429
現金及び現金同等物の増加額	1,038	14
現金及び現金同等物の期首残高	3,068	4,180
新規連結子会社の現金及び現金同等物の増加高	74	—
現金及び現金同等物の期末残高	4,180	4,195

■ 株主資本等変動計算書

当連結会計年度（平成19年5月1日から平成20年4月30日まで）

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
平成19年4月30日 残高	3,395	3,515	3,815	△ 3	10,722	△ 11	△ 11	615	11,326
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	28	28			57				57
剰余金の配当			△ 223		△ 223				△ 223
当期純利益			1,615		1,615				1,615
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）					—	△ 119	△ 119	51	△ 68
連結会計年度中の変動額合計	28	28	1,392	—	1,449	△ 119	△ 119	51	1,381
平成20年4月30日 残高	3,424	3,543	5,207	△ 3	12,171	△ 131	△ 131	667	12,707

■ 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	第38期 (平成19年4月30日現在)	第39期(当期) (平成20年4月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	11,537	11,498
固定資産	26,735	35,308
有形固定資産	5,827	5,822
無形固定資産	431	536
投資その他の資産	20,476	28,950
資産合計	38,273	46,807
(負債の部)		
流動負債	22,433	26,468
固定負債	5,817	10,190
負債合計	28,251	36,659
(純資産の部)		
株主資本	10,032	10,275
資本剰余金	3,395	3,424
資本剰余金	3,515	3,543
利益剰余金	3,125	3,310
自己株式	△ 3	△ 3
評価・換算差額等	△ 11	△ 126
その他有価証券評価差額金	△ 11	△ 126
純資産合計	10,021	10,148
負債純資産合計	38,273	46,807

■ 損益計算書

(単位：百万円)

科目	第38期 (平成18年5月1日から 平成19年4月30日まで)	第39期(当期) (平成19年5月1日から 平成20年4月30日まで)
売上高	51,262	54,386
売上原価	44,265	47,290
売上総利益	6,996	7,095
販売費及び一般管理費	5,571	5,851
営業利益	1,425	1,243
営業外収益	239	798
営業外費用	242	442
経常利益	1,422	1,599
特別利益	406	1
特別損失	412	724
税引前当期純利益	1,416	876
法人税、住民税及び事業税	535	717
過年度法人税、住民税及び事業税	127	—
法人税等調整額	208	△ 230
当期純利益	544	389

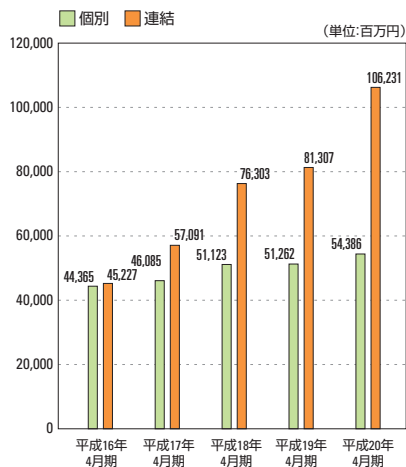
■ 株主資本等変動計算書

第39期(当期) (平成19年5月1日から平成20年4月30日まで)

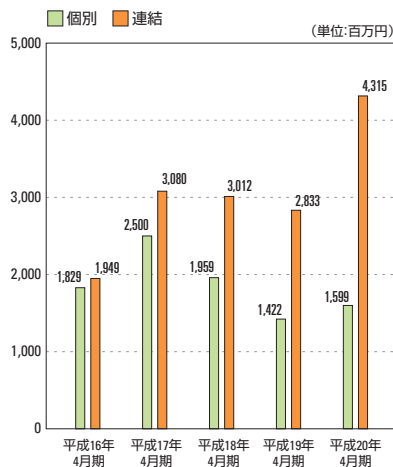
(単位：百万円)

	株主資本								評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己 株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等 合計
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	その他 利益剰余金 別途積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
平成19年4月30日 残高	3,395	2,515	1,000	3,515	1,000	2,125	3,125	△ 3	10,032	△ 11	△ 11	10,021
事業年度中の変動額												
新株の発行	28	28		28					57			57
別途積立金の積立て					200	△ 200	—		—			—
剰余金の配当						△ 203	△ 203		△ 203			△ 203
当期純利益						389	389		389			389
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額 (純額)									—	△ 115	△ 115	△ 115
事業年度中の変動額合計	28	28	—	28	200	△ 14	185	—	242	△ 115	△ 115	126
平成20年4月30日 残高	3,424	2,543	1,000	3,543	1,200	2,110	3,310	△ 3	10,275	△ 126	△ 126	10,148

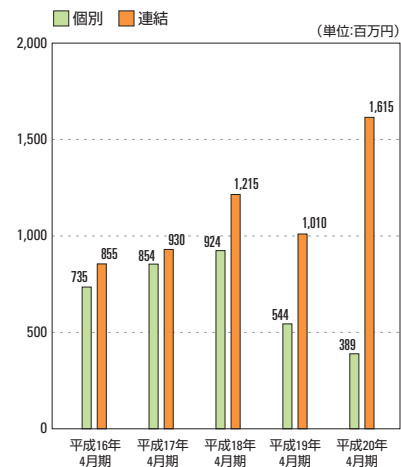
売上高



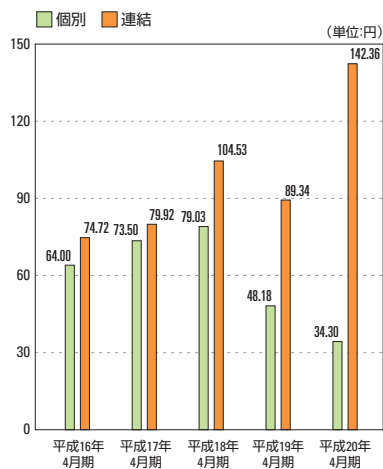
経常利益



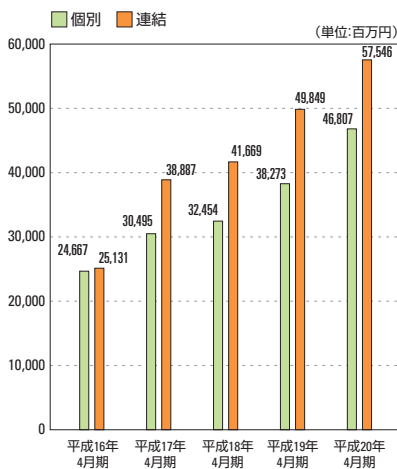
当期純利益



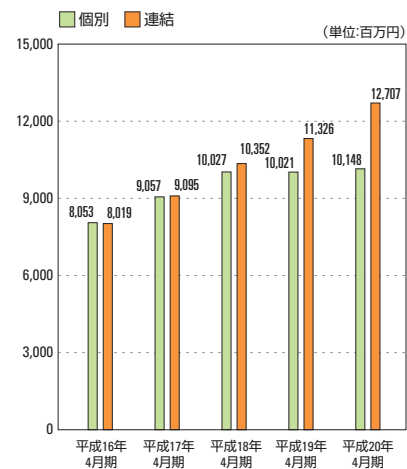
1株当たり当期純利益



総資産



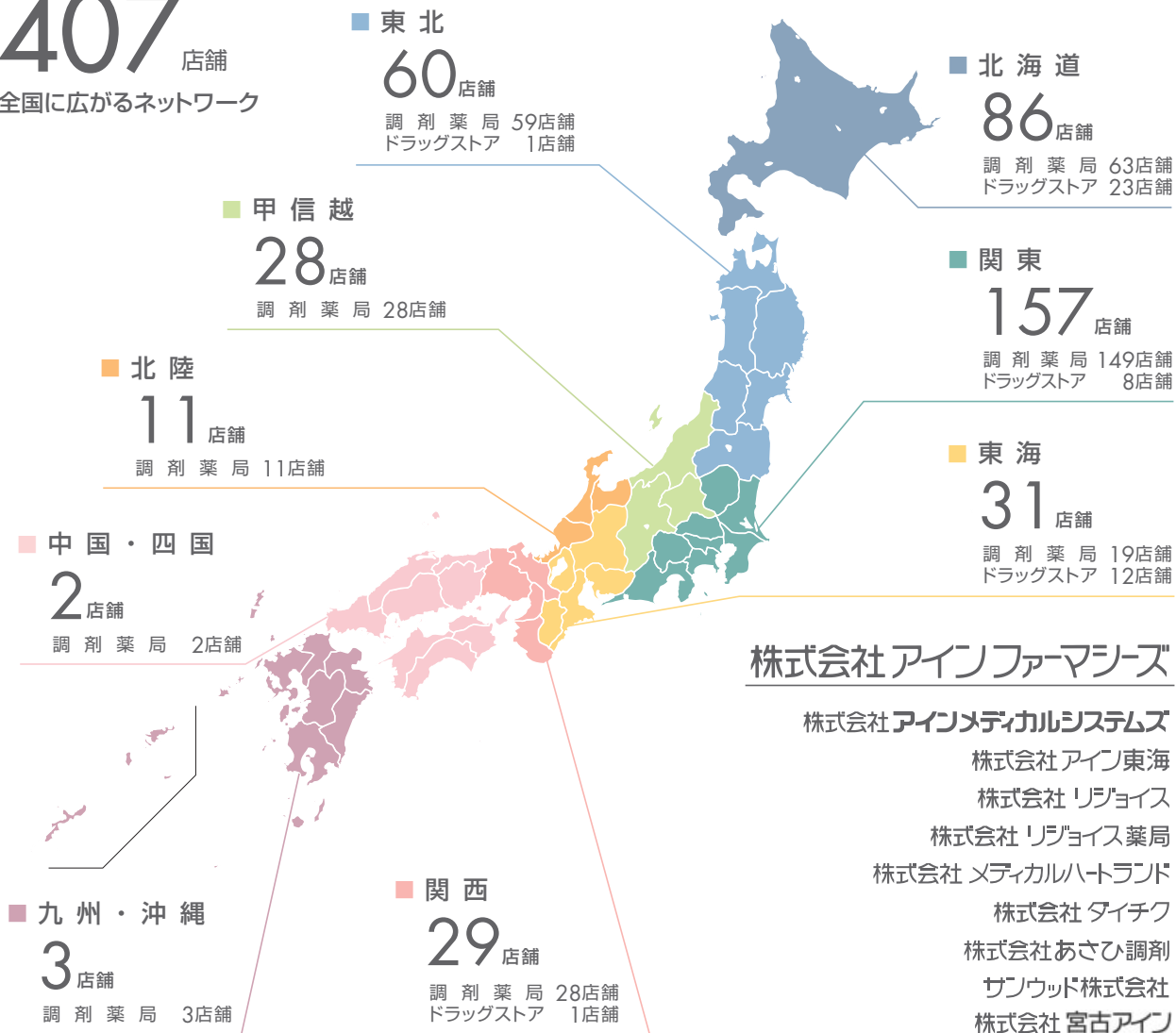
純資産



アイングループ

407 店舗

全国に広がるネットワーク



株式会社アインファーマシーズ

株式会社アインメディカルシステムズ

株式会社アイン東海

株式会社リジョイス

株式会社リジョイス薬局

株式会社メディカルハートランド

株式会社タイチク

株式会社あさひ調剤

ザンウッド株式会社

株式会社宮古アイン

<p>商 号</p> <p>本 社</p> <p>設 立</p> <p>資 本 金</p> <p>従 業 員</p> <p>事 業 内 容</p>	<p>株式会社インファーマシーズ</p> <p>札幌市東区東苗穂5条1丁目2番1号</p> <p>TEL (011) 783-0189 (代表)</p> <p>昭和44年8月</p> <p>34億2,417万円</p> <p>(注) 株式会社アインメディカルシステムズとの株式交換により、 2008年6月1日より40億2,417万円となりました。</p> <p>2,582名(連結) 1,142名(単体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調剤薬局チェーン アイン薬局 今川薬局 ・ ドラッグストアチェーン アインズ アインズ&トルペ トルペ
---	---

<p>役 員 構 成</p>	<p>代表取締役会長 今 川 美 明</p> <p>代表取締役社長 大 谷 喜 一</p> <p>代表取締役副社長 南 雲 正</p> <p>専務取締役 加 藤 博 美</p> <p>専務取締役 川 井 淳 一</p> <p>常務取締役 首 藤 正 一</p> <p>常務取締役 水 島 利 英</p> <p>常務取締役 須 崎 道 男</p> <p>取 締 役 平 田 靖 史</p> <p>取 締 役 三 上 弘</p> <p>取 締 役 土 居 由 有 子</p> <p>取 締 役 佐 藤 讓 治</p> <p>取 締 役 水 野 勝</p> <p>常 勤 監 査 役 大 橋 一 郎</p> <p>監 査 役 井 須 孝 誠</p> <p>監 査 役 石 橋 雄 哉</p> <p>監 査 役 杉 本 和 紀</p>
-----------------------	---

(2008年7月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 44,000,000株

発行済株式の総数 11,363,456株

(注) 1. 第1回新株引受権及び第2回新株引受権並びに新株予約権の行使により、発行済株式の総数は41,000株増加いたしました。

2. 株式会社アインメディカルシステムズとの株式交換により、2008年6月1日より発行済株式の総数は11,788,106株となりました。

株主数 1,913名

大株主(上位10名)

株 主 名	当社への出資状況	
	持 株 数	出 資 比 率
大 谷 喜 一	1,894	16.67
丸 紅 株 式 会 社	1,490	13.12
今 川 美 明	1,240	10.92
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	865	7.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	593	5.23
株 式 会 社 北 海 道 銀 行	546	4.81
杏 林 製 薬 株 式 会 社	200	1.76
ザチースマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルコム(仮)アカウント	181	1.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	177	1.57
ノカトラストカンパニー-エイブイシーノカトラストカンパニー-ノティクイアツ	161	1.42

(注) 出資比率は自己株式(2,456株)を控除して計算しております。

株 主 メ モ

事業年度	5月1日から翌年4月30日まで
定時株主総会	毎年7月
基準日	毎年4月30日 その他、必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(郵便物送付先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
(電話お問合せ)	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公 告 方 法	電子公告により行います。(http://www.ainj.co.jp/ ただし電子公告によることができない事由、その他やむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。
単元未満株式の取扱に関する定款変更について	第39回定時株主総会における定款変更議案の承認により、単元未満株式の買増しが可能となりました。